地域づくり表彰

ＭＯＴ（もっと）レール倶楽部（北海道網走市）

鉄道を活かした地域づくりに取り組む市民団体

ＭＯＴレール倶楽部
会長
石黒（いしぐろ）　明（あきら）



１．網走市の概要

網走市は、北海道東部のオホーツク海に面し、豊かな自然と歴史が息づく観光拠点都市です。冬には、遥かシベリアから1,000㎞も南下する流氷が接岸し、流氷観光砕氷船「おーろら」からのダイナミックな景観が人気を集めます。市内にはユニークな観光施設があり、明治時代の開拓史を刻んだ博物館網走監獄は、当時の建物を保存・公開する博物館として、多くの観光客が訪れます。



流氷の海を進む「おーろら」

地理的には、流氷が運ぶ栄養分で育まれる漁業が盛んで、新鮮な魚介類が水揚げされる港町でもあります。

市内から 20 キロほどの距離に女満別空港があり、東京、札幌などを結ぶ航空路線が1日14～15便就航していることもあり、世界自然遺産知床などオホーツク観光の玄関口となっております。

網走は古くから交通の要衝で、札幌、旭川につながる石北本線と釧路とつながる釧網本線の結節点となっており、鉄道は観光面だけではなく、市民生活にとっても重要な存在です。

２．団体の概要

ＭＯＴ（もっと）レール倶楽部は、北海道網走市で活動する「鉄道を核とした地域活性化、観光振興」を目指す任意団体です。

網走市内にある旧国鉄保養所が旅館として開業した際に鉄道愛好家が出会い、「自分たちで何か面白いことをやろう」という熱意により 2010 年５月に発足しました。

鉄道への愛情と、鉄道という地域の財産を地域活性化に繋げたいという想いを抱く共通の趣味を持つ人々の熱意により、発足以降、釧網本線冬の観光列車「流氷物語号」での取り組みなど、地域が持つ観光資源（食・文化・歴史）やゲームコンテンツを活用したユニークな取り組みにより、鉄路の利活用、活性化を目指すボランティア活動で地域づくりを実践しています。

３．鉄道と地域活性化への想い

【線区問題】

ＪＲ北海道は、2016 年 11 月、「当社単独では維持することが困難な線区」として輸送密度 2,000 人未満の 10 路線 13 線区を発表しました。

これらの線区についてＪＲ北海道は、「それぞれの地域に適した持続可能な交通体系のあり方について、地域の皆様にご相談させていただきたい」とし、発表された単独維持困難線区の延長は北海道の鉄道総延長の半分を超え、この中には、網走駅が起終点の石北本線と釧網本線が含まれていました。

【地域の財産である鉄道】

ＭＯＴレール倶楽部は、線区問題が表面化する前から、存続が危ぶまれる地方鉄道路線の利活用に向けて、様々な取り組みを実施しています。活動の原点は発足の間もない 2010 年の貸切列車企画を皮切りに新たな鉄道需要を創出し、観光客誘致と地域活性化に向けた画期的な取り組みは、後の地域づくり活動への道を切り開いていきます。

４．活動の内容

【オホーツク食い倒れ号】

2010 年から３回運行した「オホーツク食い倒れ号」は、釧網本線活性化の狼煙となった画期的な団体臨時列車です。列車の特徴は、「バーベキューカー」を連結。乗客は車窓を楽しみながら車内で本格的なバーベキューに舌鼓を打ちました。

地元企業や生産者の協力を得て、和牛、秋サケ、ホタテなど地域の豊かな食材をふんだんに提供し、さらに地域の見どころ、歴史、食に関するガイドを実施しました。

地元食材と文化、鉄道を融合させ、地域資源を活かした体験型観光の可能性を示しました。



車内で楽しむ乗客

【網走ならではのおもてなし】

2020 年から北海道で運行されている豪華観光列車「ザ・ロイヤルエクスプレス」。

ＭＯＴレール倶楽部は、運行時に豪華列車の歓迎プロジェクトを立ち上げました。道内周遊コースのうち、海が見えるポイントである網走の北浜海岸。

列車から見える北浜海岸には倶楽部が地域に呼びかけた 100 名を超える歓迎隊が集結しました。豊漁を願う縁起物であり、網走の漁業の歴史と文化を象徴する色鮮やかな大漁旗を掲げ、列車に向かって大きく手を振る歓迎は、ツアーの名物となりました。



北浜海岸での歓迎

【冬の観光列車「流氷物語号」】

長年親しまれた釧網本線冬の風物詩「流氷ノロッコ号」。機関車の老朽化により 2016 年での運行終了が決定し、冬の観光資源の喪失が懸念されました。

MOTレール倶楽部は、地域の賑わいを取り戻すため、後継列車となる「流氷物語号」の運行を強く後押ししました。2017 年からの流氷物語号運行期間中に、網走市公認「観光ボランティア」として毎日列車に乗車し、列車限定グッズ(鉄道グッズ、食品等）の車内販売するほか、車窓から見える流氷や自然、沿線の歴史や観光スポットについて、地元ボランティアならではの案内を提供するなど、温かいおもてなしで旅の思い出作りをサポートしています。



車窓案内を行う倶楽部メンバー

※JR 北海道から特別に許可を得ています

【異色コラボの実現】

MOTレール倶楽部は、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行によりインバウンドが著しく減少した 2021 年冬から、ＪＲ北海道、ゲーム関係者、沿線自治体と連携し、日本人観光客の誘致を目的に「流氷物語号」と網走などが舞台の 1980 年代に人気を博したアドベンチャーゲーム「オホーツクに消ゆ」とのコラボ企画を実施しています。

密になりにくい地方部には、コロナ禍でも多くの鉄道ファン、ゲームファンにお越しいただきました。流氷物語号のヘッドマークや行先表示板にゲームキャラクターを使用、また、列車限定グッズの車内販売により、賑わいを創出しました。

このコラボ企画は、地域に長年埋もれていたコンテンツの活用により、ひがし北海道に点在するゲームの聖地巡りを生じさせ、さらには周遊観光の促進により、経済波及効果を生み出しました。



コラボヘッドマークを装着した流氷物語号

©G-MODE Corporation
©ARMOR PROJECT ©KADOKAWA

【「オホーツクに消ゆ」周遊ツアーの実施】

コラボ企画の更なる展開として、2021 年からゲームの舞台ひがし北海道を巡るファンミーティングツアーを企画・実施（3 回目の 2024 年は観光庁「地域観光新発見事業」を活用）しています。

全国からファンを誘致し、鉄路の利用促進とともに、経済効果と交流人口の増加に取り組んでいます。

ツアーはゲームの聖地や観光地を訪問し、夜には「オホーツクに消ゆ」の作者であり、ゲームクリエイターのレジェンド堀井雄二氏などが参加するファンミーティングを実施。「ファンの見たい、乗りたい、会いたい」を実現しました。この高付加価値ツアーは、紋別や阿寒湖、釧路などゲーム舞台各地での実施に繋げ、ブラッシュアップしながら継続的な取り組みを実践しています。



聖地でゲームシーンを再現する参加者

５．創意工夫

【資金面での持続化】

MOTレール倶楽部は、収益を目的としない任意団体であるため、活動資金の確保には、アイデアと創意工夫に努めています。流氷物語号の車内販売では、列車に乗らなければ購入できない商品を制作し、販売しています。ＪＲ北海道、ゲーム制作会社と連携し、鉄道ファンやゲームファンの心に響く商品を販売して、活動資金を確保していています。

生じた利益は、釧網本線の利用促進に活用しており、利益を次の企画で活用する他、北海道や国の補助事業のいわゆる自己負担分としても活用し、持続可能な取り組みを実践しています。

【地元大学との連携】

網走市内にある東京農業大学生物産業学部と連携し、大学で活動内容や意義を伝え、毎年ボランティア活動に興味がある大学生を募集し、活動に加わってもらっています。大学との連携により、毎年新たな学生に関わっていただくことも持続的な活動に繋がっています。

６．成果

「流氷物語号」のボランティア活動、企画列車の運行を実施してきました。これによりコロナ禍の鉄道利用や入込底支え、関係人口の創出に寄与しています。

また副次的に鉄道ファン、ゲームファンによるＣtoＣの情報拡散に繋がり、ゲーム制作者による投稿は 20 万を超えるインプレッションを獲得し、地域の魅力の発信に繋がりました。

７．今後の展望

網走にも人口減少や少子高齢化など地域を取り巻く課題はたくさんあります。

私たちは、これまで大切にしてきたおもてなしの心や、得意とするユニークな企画により地域の鉄道と観光地の価値を向上させ、関係人口の創出により、地域づくりの一端を担っていきます。「これからも繋がりつづける鉄路」これが私たちが想う未来への展望です。